

「創意と活力」のある学校づくり推進事業報告書

春日井市立 鷹来中 学校
校長 平井 和彦

事業テーマ	生徒のかかわりの力の育成～「鷹中タイム」の実践を通じて	
取組の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの関わりの機会を増やし、スキルを学び学校・学級が幸せな場所にしていきたい。 ・自尊感情を育成したい。 ・他者と関わる技術やコツを獲得させたい。 	
区分 (○印を付ける)	新規事業・ <u>継続事業</u> (総事業年数 3年間、3年目)	
継続事業の場合、昨年度の課題を踏まえて対応した内容	生徒アンケートの結果から、70%の生徒が他者との関わり方が上達したと回答した。また、70%の生徒が鷹中タイムで身につけた力を授業で活かしていると実感している。一方で人間関係のトラブルは減少しておらず課題となっている。	
事業名	事業内容	実施時期
ソーシャルスキルトレーニング	・毎週火曜日にSST・SGEのトレーニングを行う。	通年 講師指導
先進校視察	・研究発表会の視察	年1回
授業力向上研修会	・外部講師による授業参観・指導講評	年1回
	・外部講師による授業参観・指導講評	年2回
取組の成果	生徒のコミュニケーション力に関する複数の前進が確認された。アンケート結果によると、「少し得意になった」と回答した生徒が約半数を占め、活動を通じて話すことへの抵抗感が軽減さ	

れたことがわかった。また、「授業や日常生活に活かせる」と感じる生徒が5割を超え、鷹中
タイムで学んだスキルが学校生活に結び付いていることが示された。さらに、挨拶や相づち、
聞く姿勢といった基本的な関わり方が定着しつつあり、学年が上がるにつれて進路や社会を意
識した振り返りが見られるなど、活動の質的な広がりも確認された。

課題

次年度に向けては、「話せた」で終わるのではなく、「使えた」という実感を生徒が持てる場
面を増やす必要がある。現状では、活動と授業や日常生活との接続が不十分であり、学年や個
人によって意識の差が見られる。第二に、定型的な話型に頼りすぎることで、実生活での応用
が難しいと感じる生徒がいるため、より柔軟な会話スキルを育成する工夫が求められる。第三
に、生徒の主体性や納得感に差があり、やらされ感が残る場面があることから、活動設計にお
いて教員のローテーションを取り入れ、生徒の主体性と納得感を高めること。これらの課題に
対応することで、鷹中タイムはより実践的で意味のある学習活動へと進化し、生徒が自信を持
ってコミュニケーション力を発揮できる環境を整えることができる。